

と呼ばれる者も、女も、子どもも、外国人も、「基本所得」<sup>ベーシックインカム</sup>を当たり前前に要求してゆくこと、分け前無き者がその分け前を登録し、そこに不和を生じさせること。「基本所得」<sup>ベーシックインカム</sup>の要求は、それ故、政治を私たちの手に取り戻すことだ。

(ある雑誌から舞い込んできた「チラシ」から「引用」。一部改変)

## 『もうたくさんだ!』大行進<sup>いっつい</sup>と「生の保障研究団」とを一对のものとして、進めることを計画しています

「生の保障研究団」——それぞれの人が「もうたくさんだ!もうがまんできない」と思う〈こと・もの〉は、いろいろでしょう。しかし、それらの多様な〈こと・もの〉をつらぬく思いのひとつは、きっと「私を自由に生きさせろ!——生の無条件の保障を!」というテーマに集約できるだろう、と思います。このテーマを多様な角度から「学習／調査／研究」すること、それが「研究団」です。

その活動を通じて、一方で「生の保障」どころか、私たちをその枠外に押し出す「社会的排除」の実態を追及・監視する「社会的排除監視団」、他方でその実態を批判することから、さらに一步踏みだして「生の保障」の実現に向けて『生の保障』要求者組合を立ち上げることを、めざします。

### ミーティング案内

「大行進」はスタートした、さてそれでは?

日時 5月6日(日) 2時より

場所 net jammeres 事務所 富山市神通町3-5-3

TEL 076-441-7843 神通大橋東詰

# こちら「もうたくさんだ!」大行進 応答願います



(「尾藤 豊 作品集」から)

# 「もうたくさんだ！」 大行進

——「**窮鼠** (追いつめられたネズミ) キユウソ」の乱の始まりへ

「雇用」は不安定、「福祉」は不十分どころではなく、大きくゆれる生きることを支える「社会的きずな」。生活は「貧困」に押しつぶされ、存在そのものが「切り捨て」られ、「排除」されそうになっている。しかも、まわりからは「それは全て『自己責任』だ」と、きめつけられる。

私たちの身体は、日ごとに、「もうたくさんだ!」・「もうがまんできない!」と叫んでアバレタイという思いで、染め上げられています。

「もうたくさんだ!」・「もうがまんできない!」——〈なに〉についてそう思うのかは、私とあなたとで、同じでないかもしれません。それでも、それを〈声〉にしたい、〈叫び〉にしたい、身体全体であらわしたい、そのことで「私ハココニ生キテイル」と示したいということでは、同じではないか、と思います。

そこで始めます。5月1日は、「労働者の祭典(メーデー)」です。(今年4月28日(土))この日・この機会に「こちら『もうたくさんだ!』大行進、応答願います」と、「大行進」しながら、この社会に「ナメラレッパナシデタマルカ」と〈発信〉することを始めます。例えば次のように**もうたくさんだ! 「自己責任」論 私を自由に生きさせろ!**。あなたも、あなたが「もうたくさんだ!」「もうがまんできない!」と思うこと・もの〉をもって参加しませんか?

ちなみに、ここで「私たち」と言っているのは、「『窮鼠』キユウソ(追いつめられたネズミ)組」のことで、この「大行進」は、「窮鼠」、猫ならぬ犬を、キユウソはむ「乱」の始まりです。

ベーシックインカム  
全ての者に、無条件に、「基本所得」を!

——「大行進」の合い言葉

人の生は、大事だとだれもが言う。であるなら、お金が無いために人の生が奪われることがあってはならない。そうした合意の上に、社会権や憲法25条だとか、福祉国家というものが築かれたはずだった。ところが実際行われてきたことは、人の生の等級付け、低く見積もられた生の廃棄だった。私たちはそうした分類の政治、廃棄の政治を拒否する。当たり前の、本当に慎ましい要求は、ベーシックインカム「基本所得」である。全ての人が、その生を営むのに必要なお金を無条件で保障されなくてはならない。生きていくことは支払われるに値する。

重要なのは、〈全てのひとに無条件で〉支払われることである。ベーシックインカム「基本所得」においては、誰も何者であるかを問われることはない。あらゆる生のありようが無条件で肯定される。働いているか否か、「障害」者か否か、男か女か、老いているかいなか、などの差違に基づいて構成された人間のヒエラルキーを拒むことが可能となる。

ベーシックインカム「基本所得」の下では、ひとの生存のために必ずしも労働しなくてもよい。生存のための労働からひとを解放するベーシックインカム「基本所得」の要求はだから、資本主義社会の秩序に根源的に敵対しうるものである。それはまた、支払われる労働から排除されてきた者、不払い労働を強制されてきた者など、〈分け前〉を不当に少なくしか／あるいは全く用意されてこなかった者の、その分け前を登録することによって、そこに不和を生じさせうるものでもある。

これまで〈分け前〉を用意されてこなかった、非正規労働者も、「フリーター」と呼ばれる者も、野宿者も、「障害」者も、学生も、「ニート」